

秋田県生涯学習センター

2023事業計画・2022事業実績

発行 令和5年4月

も く じ

令和5年度 秋田県生涯学習センターの事業 ～3機能のネットワーク化による地域及び現代的課題解決へのアプローチ～

1 シンクタンク機能

「障害者の生涯学習」に関する調査研究の推進

- | | | |
|------------------------------|----------|-----|
| (1) 調査研究の推進・拡充 | | |
| □ 「障害者の生涯学習」に関する調査研究（5年次）の推進 | … | 1 |
| （「障害者の生涯学習」に関するこれまでの主な取組） | … | 2 |
| □ 社会教育状況調査の実施 | （2022実績） | … 3 |
| (2) 多様な主体との連携・協働 | （2022実績） | … 4 |
| (3) 運営委員会の開催 | （2022実績） | … 5 |

2 研修・人材育成

「持続可能な地域づくり」を目指す研修・支援の推進

- | | | |
|-------------------------|----------|------|
| (1) 研修事業の推進 | … | 6 |
| （2022実績） | … | 7～8 |
| (2) 市町村等の課題解決に向けた取組への支援 | … | 9 |
| (3) 生涯学習団体への支援 | （2022実績） | … 10 |
| □ 秋田県生涯学習センター交流発表会について | … | 11 |

3 学習活動・情報発信

県民の生涯学習機会と学習情報発信の充実

- | | | |
|--------------------|----------|------|
| (1) 県民の生涯学習機会の充実 | … | 12 |
| (2) 学習活動等の情報発信の充実 | （2022実績） | … 13 |
| (3) 展示スペースの活用促進 | … | 14 |
| (4) 学習相談の充実 | … | 15 |
| (5) 県庁出前講座の実施 | | |
| (6) 障害者スポーツスペースの活用 | … | 16 |
| (7) 視聴覚教育の充実 | | |
| (8) 施設利用の促進 | … | 17 |
| 令和4年度 センター利用者数 | | |

【主な資料について】

※ 参照：秋田県生涯学習センターWebサイト

- 令和4年度 障害者の生涯学習に関する意識啓発リーフレット
「生涯のあるなしにかかわらず 一緒に学べる場 つくってみた」
- 令和3年度 障害者の生涯学習理解促進リーフレット
「障害者の生涯学習～共生社会の実現に向けて～」
- 2020 Research Report 「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査
- 令和元年度 「家庭教育に関する調査」グラフで見る秋田の家庭教育
- 令和4年度 生涯学習・社会教育関係者研修実施レポート及び研究大会報告
- 令和4年度 家庭教育支援指導者等研修実施レポート
- 令和4年度 あきたスマートカレッジ講座内容報告 ほか

令和5年度

秋田県生涯学習センターの事業 ～3機能のネットワーク化による地域及び現代的課題解決へのアプローチ～

本県生涯学習及び社会教育推進の中枢機関として、県民の生涯にわたる学習活動を支援するとともに、関係職員の資質向上を図り、市町村及び関係機関・団体との連携・協働の実質化による「学び」と「活動」の橋渡しに努め、持続可能な地域づくりの実現に寄与する。

シンクタンク機能

「障害者の生涯学習」に関する調査研究の推進

- ①調査研究の推進・拡充
 - 「障害者の生涯学習」に関する調査研究（5年次）の推進
 - ・市町村との協働による、障害者の生涯学習充実のための仕組みづくりと波及
 - ・理解促進リーフレットの活用
 - 社会教育状況調査の実施
- ②多様な主体との連携・協働
 - 民間企業等との連携・協働
 - 大学との連携・協働
 - 関係機関との連携・協働

③運営委員会の開催

研修・人材育成

「持続可能な地域づくり」を 目指す研修・支援の推進

- ①研修事業の推進
 - 地域課題や現代的課題（障害者の生涯学習・防災等）の解決に迫る関係職員研修の充実
 - ・新任職員等
 - ・市町村職員
 - ・公民館等職員
 - ・家庭教育支援指導者
 - ・学校・家庭・地域連携総合推進事業関係者
 - 県生涯学習・社会教育研究大会
- ②市町村等の課題解決に向けた取組への支援
 - 「学校・家庭・地域連携総合推進事業」にかかるオーダーメイド型社会教育主事派遣（5年次）の充実
 - 「障害者の生涯学習支援モデル事業」にかかるオーダーメイド型社会教育主事派遣（2年次）の拡充
- ③生涯学習団体への支援

学習活動・情報発信

県民の生涯学習機会と 学習情報発信の充実

- ①県民の生涯学習機会の充実
 - 地域課題や現代的課題に迫るあきたスマートカレッジの充実
 - ・カレッジ講座の実施
 - ・単位認定
- ②学習活動等の情報発信の充実
 - 生涯学習情報紙及び生涯学習支援システムによる情報発信
 - ・生涯学習情報紙の発行
 - ・生涯学習支援システム「まなびずポータル秋田」の掲載情報の充実
- ③展示スペースの活用促進
- ④学習相談の充実
 - 「ブルーの窓口」での相談業務
- ⑤県庁出前講座の実施
- ⑥障害者スポーツスペースの活用
- ⑦視聴覚教育の充実
- ⑧施設利用の促進

1 シンクタンク機能

「障害者の生涯学習」に関する調査研究の推進

(1) 調査研究の推進・拡充

シンクタンク機能の中核となる調査研究は、本県生涯学習・社会教育推進の方向性を定め、現代的課題の解決につなげるために実施している。

□ 「障害者の生涯学習」に関する調査研究（5年次）の推進

障害の有無にかかわらず一緒に学ぶことができる学習プログラム（仕組み、内容）を広めるために、地域の状況に応じた取組の在り方について、関係機関や団体、企業等の多様な主体との連携・協働により、市町村のモデルとなる実践を行う。

【具体的な取組内容】

- 希望する市町村との連携・協働により、当事者の声を基に学びの場をつくる。
- 調査研究委員会を2回開催する。
- 生涯学習・社会教育関係者研修において、障害者の生涯学習に関する内容を織り込んだ研修会を実施する。
- あきたスマートカレッジにおいて、障害者の生涯学習に関する内容を織り込んだ講座を実施する。
- 民間企業・大学等の多様な主体との連携・協働による学習機会を構築する。

（「障害者の生涯学習」に関するこれまでの主な取組）

☑ 1年次（令和元年度）

特別支援学校高等部及び卒業後3年以内の生徒の保護者を対象に、生涯学習に関する環境整備やニーズ等に関する調査を実施し、県内の状況把握に努めた。令和2年3月には、その結果を「概要版」として発行（2,300部）するとともに、現状把握のための関係団体ヒアリングを実施した。

☑ 2年次（令和2年度）

前年度調査のより詳しい分析及び聞き取り調査（特別支援学校及び就業・生活支援センター）を実施するとともに、調査結果から見えてきた課題に対応するために新たな視点（防災、障害者スポーツ）による講座及び職員研修を実施した。さらには、民間企業（10社）からなる協賛団体「ブルーS3」（ブルースリー）との協働により、「ブルーS3杯ポッチャ交流大会（R2.12）」を開催した。

☑ 3年次（令和3年度）

令和2年度の研究及び講座や研修等の実践を生かし、障害者の生涯学習についての理解促進を目的としたリーフレット「障害者の生涯学習～共生社会の実現に向けて～」を作成・発行（2,000部）した。また、3回の調査研究委員会を開催するとともに、昨年度の同会議で話題になった障害のある方、ない方が一緒に参加する「熟議」を2回（1回はオンライン開催）実施。さらに、協賛団体「あきたWith」（企業数が21社に増えて「ブルーS3」から名称変更）との共催により、「あきたWith杯ボッチャ交流大会（R3.12）」を開催した。

☑ 4年次（令和4年度）

『「障害者の生涯学習」の推進とつながりづくり～連携・協働や学びの場を創る実践に向けた仕組みの考案～』をテーマに掲げ、令和3年度作成のリーフレットの活用状況や内容の改訂等について話し合うための調査研究委員会を2回開催するとともに、新たな取組を展開した。

一つは、仙北市との協働（「オーダーメイド型社会教育主事派遣」を活用）により、障害の有無に関わらずともに学ぶことができる学習プログラムの企画・実践に努め、市町村のモデルとなる事業の開発に取り組んだ。

いま一つは、障害の有無にかかわらず意見交流をする熟議「みんなの思い イウベ・キクベ」、街歩きイベント（車椅子での街歩き）「アルクベ・イウベ・キクベ」を開催し、テーマに迫るための取組を実施。加えて、「あきたスマートカレッジ」では、県民の障害者の生涯学習に関する理解促進に向けた学習講座「障害のある方の学び～わたしたちのプレジャンプ（全4回）」を実施するとともに、生涯学習・社会教育関係者研修において、障害者の生涯学習に関する内容での研修を2回実施した。

その上で、これまでの取組の成果と今後の方向性を広く県民に伝えるための意識啓発リーフレット「障害のあるなしにかかわらず一緒に学べる場 つくってみた」（5,000部）を作成し、市町村等に配付した。また、秋田県教育研究発表会（総合教育センター）で研究成果を発表したほか、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの社会教育情報番組「社研の窓」に当センターの実践が取り上げられ、令和5年度初めにWebサイトに掲載される。

さらには、3回目となる「あきたWith杯ボッチャ交流大会（R4.12）」を、当センター3階講堂に2つのコートを設置するかたちで開催し、12の団体が参加した。

□社会教育状況調査の実施

市町村の生涯学習・社会教育の現状を把握し、基礎資料とするための調査を令和元年度から当センターが担当しており、今年度も実施する。

(2022実績)

障害者の生涯学習に関する意識啓発リーフレットについて

タイトル「障害のあるなしにかかわらず 一緒に学べる場 つくってみた」

- ・作成部数 5,000部
- ・主な配布先 市町村教育委員会、小・中・義教・高・特支学校、福祉関係事業所、文部科学省等、近隣県教育委員会等

「家庭教育に関する調査」について

令和元年度に県内幼稚園・保育所及び認定こども園、小、中、高校の幼児・児童・生徒（抽出）の保護者に対し調査を実施し、「グラフで見る秋田県の家庭教育」と題してダイジェスト版の報告書を作成した。

令和2年度には、その詳細について分析し、考察を加えて報告書を完成させ、当センターWebサイトで公開している。

令和4年度「社会教育状況調査」

市町村の生涯学習・社会教育の現状を把握し、基礎資料とするための調査を7月に実施し、生涯学習課へ報告した。結果は「施策の概要」に掲載。

(2) 多様な主体との連携・協働

□民間企業等との連携・協働

調査研究等に関する取組、各種研修等の企画・実施に際し、民間企業等とのコラボレーションにより内容の充実を図る。

□大学との連携・協働

各種研修等の企画・実施に当たっては、これまでの取組の成果を生かし、秋田大学、日本赤十字秋田短期大学、東北大学等の県内外の大学との連携・協働を強化する。

また、秋田大学教育文化学部等の講義及び特別講義の講師を担当することにより、職員の資質向上を図るとともに、当センターのシンクタンク、研修・人材育成、学習活動推進・情報発信の3機能を駆使して、人材育成に当たる。

□関係機関との連携・協働

国及び県機関、県立学校、市町村立学校等との連携・協働に努めるとともに、市町村との協働による実践研究に取り組む。

(2022実績)

☑民間企業等との連携

○「あきたWith」（現在28社が加盟）との連携・協働により、第3回ボッチャ交流大会を実施した。

☑大学との連携

○東京大学史料編纂所からの講師派遣

東京大学史料編纂所の研究者が、様々な史料に基づく研究の成果を直接県民に伝える講座（あきたスマートカレッジ「東大史料編纂所協力講座」）を5回にわたり開設した。 ※ 5回のうち4回はリモートにより実施

○秋田大学教育文化学部「社会教育経営論Ⅱ」「社会教育計画Ⅱ」の講師を担当

※ 後期授業の全15コマを担当

○秋田大学特別講義「人権と共生～ボランティア活動論～」の講師を担当（2コマ）

○第33回全国特別支援教育研究部門合同研究集会秋田大会

令和4年度秋田大学教育文化学部附属特別支援学校公開研究協議会 ※同時開催
「体験と熟議が生み出すつながりの場」というテーマで、当事者の声を反映させた学びの場の創出と熟議による「地域とともにある学校づくり」への支援についての事例等を発表した。

☑関係機関との連携

○国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

社会教育情報番組「社研の窓」に当センター「障害者の生涯学習」関係事業の実践が取り上げられ、令和5年度初めにWebサイトに掲載される。

(3) 運営委員会の開催

当センターの適正な運営と円滑な事業の推進を図るため、次のような委員を選任し、年2回の委員会を開催する。

○任期は2年（R4.4.1～R6.3.31）

○委員は8名（うち公募1名）

- ・生涯学習の実践者
- ・生涯学習センター利用者の代表
- ・市町村教育委員会等の代表
- ・生涯学習・社会教育団体の代表
- ・学識経験者

(2022実績)

第1回運営委員会

- 1 日時 令和4年7月8日（金） 午後3時から4時30分まで
- 2 場所 生涯学習センター 視聴覚室
- 3 出席者 運営委員7名 生涯学習センター職員14名 生涯学習課3名
- 4 案件
(1) 前年度の事業報告と今年度の主な事業計画について
(2) その他
- 5 その他

※ 議事録はセンターWebサイトに掲載

第2回運営委員会

- 1 日時 令和5年1月26日（木） 午後1時30分から3時まで
- 2 場所 生涯学習センター 視聴覚室
- 3 出席者 運営委員7名 生涯学習センター職員14名 生涯学習課2名
- 4 案件
(1) 今年度事業の実施状況について
(2) 来年度の主な事業等について
- 5 その他

※ 議事録はセンターWebサイトに掲載

2 研修・人材育成

「持続可能な地域づくり」を目指す研修・支援の推進

(1) 研修事業の推進

現代的課題（障害者の生涯学習・防災等）の解決に迫る関係職員研修の充実

○年間研修テーマ「人づくり・つながりづくり・地域づくりの好循環を目指して
～ゆるやかなネットワークによる社会教育の充実～」

【生涯学習・社会教育関係者研修】

□新任職員等基礎研修『必修！社会教育行政の役割と可能性』

5月10日（水） ※YouTube限定配信

□第1回秋田県地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員等研修会

『実践演習！熟議をファシリテート』

6月21日（水） 会場：生涯学習センター

□第1回市町村・公民館等職員専門研修『「学び」の場への住民の主体的参画』

7月21日（水） 会場：生涯学習センター

□第2回市町村・公民館等職員専門研修『公民館が地域のためにできること』

8月30日（水） 会場：生涯学習センター

□第3回市町村・公民館等職員専門研修『障害者の生涯学習 × 防災』

10月4日（水） 会場：生涯学習センター

【家庭教育支援指導者等研修】

□第1回 チーム活動の推進 / 持続可能な家庭教育支援について考えよう

○講話「保護者に寄り添う家庭教育支援」

○意見交流「持続可能な家庭教育支援について」

○講話『「自分らしい子育て」への支援

～保護者に寄り添う支援の在り方について～』

5月25日（木） 会場：生涯学習センター

□第2回 子ども・保護者理解 / 保護者の声を聴き、気持ちが前向きになる

かかわり方やつながり方を学ぼう

○講話・情報交換「学校との協働で進める子ども・保護者への支援」

○講話と演習「やさしい傾聴とコミュニケーションについて」

7月14日（金） 会場：生涯学習センター

- 第3回 支援体制の工夫 / 地域やチームのつながりで家族を支えよう
 ○講話『絆の力で子どもと親の「育ち」を応援
 ～自分たちではできないことをネットワークの力で～』
 ○演習「チームの活動をリノベーションしてみよう」
 9月21日（木） 会場：生涯学習センター
- 第4回 現代的課題へのアプローチ / アフターコロナで増加する課題に対応
 した家庭教育支援を進めよう
 ○講話・演習「子どもたちのネット利用と大人の役割」
 ○講話「子どもの貧困の現状と求められる支援について」
 ○協議「様々な主体との連携による家庭教育支援」
 11月16日（木） 会場：生涯学習センター

【秋田県生涯学習・社会教育研究大会】 ※ 内容については未定
 11月10日（金） 会場：生涯学習センター

(2022実績)

- 【生涯学習・社会教育関係職員研修】（参加者総数 232人）
- ☑新任職員研修 5月11日（水）・12日（木） 85人参加
 テーマ「必修！はじめに知っておくべき
 生涯学習・社会教育行政の役割と可能性」 ※YouTube限定配信
 - ☑第1回地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員研修会
 （兼）熟議ファシリテーター養成研修 6月15日（水） 62人参加
 テーマ「実践演習！熟議をファシリテート！」
 - ☑第1回市町村職員専門研修 7月20日（水） 26人参加
 テーマ「障害者の生涯学習講座の実践方法と情報発信について学ぼう」
 - ☑第1回公民館等職員専門研修 9月7日（水） 30人参加
 テーマ「公民館が地域のためにできること～防災・情報格差の縮小～」
 - ☑第2回市町村職員専門研修（兼）第2回公民館等職員専門研修
 10月26日（水） 29人参加
 テーマ「障害者の生涯学習×公民館の防災」

【家庭教育支援指導者等研修】（参加者総数 220人）

☑第1回 5月25日（水） 65人参加

テーマ『保護者の気持ちや指導の実際を知り、地域でチームで支えよう』

講話「地域学校協働活動として支援する家庭教育支援チーム」

協議「公民館、学校、保健・福祉との連携による家庭教育支援」

講話「幼児期に必要な経験と小学校教育への接続」

☑第2回 7月6日（水） 56人参加

テーマ『家庭が前向きになるかかわり方やつながり方を学ぼう』

講話・演習「子育て課題としてのネットデビュー」

講話・演習「コミュニケーション能力を引き出すカウンセリングマインド」

☑第3回 9月19日（木） 52人参加

テーマ『キャッチできる体制をつくり、持続可能な家庭教育支援の在り方を考えよう』

講話・協議「西会津町地域学校協働本部事業

家庭教育相談室『こころのオアシス』の活動」

講話Ⅰ「コロナ禍でも気軽に相談できる工夫」

講話Ⅱ「学校との連携づくりについて」

☑第4回 11月17日（木） 47人参加

テーマ『コロナ禍をはじめとする社会の変化に対応した家庭教育支援を進めよう』

講話・協議「不登校・ひきこもりにおける家庭教育支援の実際」

講話「ケアラー・ヤングケアラーへの支援策について」

【秋田県生涯学習・社会教育研究大会】 ☑11月11日（金） 137人参加

※ ハイブリッド型研修

テーマ「持続可能な地域づくりに向けて

～ゆるやかなネットワークによる社会教育の充実～

基調講演 「社会教育関係者には、今何が期待されているのか」

文教大学人間科学部 教授 金藤 ふゆ子 氏

実践紹介1 「熟議で深まる地域のきずな」

鹿角市教育委員会生涯学習課 主査 赤坂 勲 氏

実践紹介2 「共生社会実現に向けた公民館の取組」

仙北市中央公民館 社会教育専門官 佐々木幸美 氏

(2) 市町村等の課題解決に向けた取組への支援

市町村、学校等の課題解決に向け、要望のあった市町村等にセンター職員が出向き、市町村等の職員と協働・研究して課題解決に取り組む。

□学校・家庭・地域の連携・協働に関するオーダーメイド型社会教育主事派遣
(5年次)の充実

□障害者の生涯学習支援に関するオーダーメイド型社会教育主事派遣(2年次)
の拡充

※ 事業予算 : 職員旅費、通信・運搬費、消耗品費

※ 事業の枠 : 生涯学習課所管の「学校・家庭・地域連携総合推進事業」
及び「障害者の生涯学習支援モデル事業」の中で実施

(2022実績)

「学校・家庭・地域の連携・協働に関する取組」エントリー市町及び学校

鹿角市(4)、北秋田市(4)、大仙市(1)、小坂町(1)、三種町(2)、
八峰町(1)、県立ゆり支援学校(4) ※ ()内は継続年数

6市町と1特別支援学校がエントリーし、学校運営協議会制度や地域学校協働活動の円滑な推進、導入準備、関係者研修の在り方等を主な課題として、協議、熟議等の開催、市町が主催する研修会での助言等を通して、関係職員や教員、地域学校協働活動推進員等への学習機会の提供等に努め、各地域の実情に応じた一定の成果を上げることができた。

※ 詳細はエントリー先ごとに作成のカルテを参照

「障害者の生涯学習支援に関する取組」エントリー市

仙北市(1) ※ ()内は継続年数

障害者の生涯学習支援の視点で主催する仙北市中央公民館事業に企画段階からかかわり、域内の特別支援学校、障害福祉サービス事業所との連携・協働事業としての開催に寄与した。(講師及びスタッフとして)

(3) 生涯学習団体への支援

県民に学習の機会を提供することを目的とした生涯学習団体に対する支援を継続する。支援種別には、「団体立ち上げ支援」と「団体活動支援」の2つがある。

※ 「団体活動支援」は令和5年度末をもって終了する。したがって、令和6年度以降に研修室等を使用する場合は、「一般団体」としての利用申込みが必要となる。

※ 2019年度より現行での支援を開始したが、令和2、3、4年度新たな「団体立ち上げ支援」の対象はない。(それ以前に「団体立ち上げ支援」を活用した団体は、秋田文学愛好会、須磨句会、武術太極拳火曜クラス、初心者のための太極拳の会で、これらは現在、「団体活動支援」の対象となっている)

(2022実績)

生涯学習団体活動支援の実績(1,717人)の内訳

☑秋田文学愛好会	4回	73人
☑古典文学に親しむ会	18回	200人
☑結の会	22回	106人
☑県生涯学習インストラクターの会	0回	0人
☑あきたエコマイスター県央協議会	7回	64人
☑俳句学習会「美の國句会」※R4.12.10解散	9回	62人
☑俳句学習会「須磨句会」	12回	112人
☑あきた恵古塾	12回	50人
☑初心者のための太極拳の会	40回	700人
☑武術太極拳火曜クラス	25回	350人

生涯学習ボランティア団体活動支援の実績(191人)の内訳

☑生涯学習ボランティアグループ「ヤッホーの会」	11回	103人
☑生涯学習ボランティアコーディネーター「のぞみ」	15回	88人

□秋田県生涯学習センター交流発表会について

当センターの生涯学習団体支援制度を利用している団体等の自主的な参加による発表・交流・体験を通して、団体間のネットワークづくりを図るとともに地域活性化の一助となることを目的に令和3年度初めて実施。

隔年開催の予定だった令和5年度は、コロナ禍等の状況を考慮し、開催を見送ることとした。それ以降については、令和5年度中に検討予定。

(過去の実績)

☑令和3年度秋田県生涯学習センター交流発表会

令和3年12月5日(日) 60人参加

テーマ「初めまして、笑顔を交わしてつながろう」 会場：生涯学習センター

12の団体が参加し、口頭や実演、展示により日頃の活動や学習の成果を発表。その後、それぞれの団体に感想、質問等のメッセージが他の団体から寄せられ、それに回答するかたちで意見交流がなされた。終了後、参加者からは今後の活動への意欲や交流の意義、次回開催への期待等、たくさんの意見が寄せられた。

3 学習活動・情報発信

県民の生涯学習機会と学習情報発信の充実

(1) 県民の生涯学習機会の充実

地域課題や現代的課題に迫るあきたスマートカレッジの充実

□カレッジ講座の実施

【無料講座】

□地域づくり分野

- A 地域の特色学び講座～挑戦と創造～（3回） 6/10, 7/29, 8/26
B サポーター養成講座～地域サポーターへのファーストステップ～（4回）
9/2, 10/7, 11/11, 12/9
C 熟議ファシリテーター講座～わたしの「熟議」～（4回）
6/3, 6/24, 7/15, 8/5

□現代的取組分野

- D 障害者の生涯学習講座～学びのドアを開けよう～（4回）
9/2, 10/7, 11/11, 12/9
E 防災講座～防災は日常とともに～（4回） 6/10, 7/1, 7/22, 8/5

【有料講座】 ※受講料は1講座につき440円

□教養分野

- F 東大史料編纂所協力講座～歴史を伝える手紙～（5回）
8/19, 9/9, 9/30, 10/14, 11/4
G 北条常久特別企画講座～子どもと一緒に楽しみたい児童文学～（6回）
5/20, 6/17, 9/16, 10/21, 11/18, 12/16

□単位認定

生涯学習手帳を希望する県民に配付するが、所定の手帳以外にも学習記録がわかるものがあれば、それによって単位を認める。

所定の修得単位数に達した学習者のうち、希望者には次の称号を授与し、表彰する。

なお、令和3年度より生涯学習手帳の増刷は行わず、Webサイトからのダウンロードにより県民が同様のシートを取得できるようにした。

50単位修得	わか杉・マナビスト（児童・生徒に限る）	6人
100単位修得	ブロンズ・マナビスト	290人
300単位修得	シルバー・マナビスト	114人
500単位修得	ゴールド・マナビスト	79人
1000単位修得	プラチナ・マナビスト（論文必要）	10人
2000単位修得	プラチナ・マナビスト	0人

※ 令和5年3月31日現在のべ人数

(2022実績)

あきたスマートカレッジ参加者総数（614人）の内訳

【無料講座】

<input checked="" type="checkbox"/> A 新たな学び講座クリエイティブ編（3回）	53人参加
<input checked="" type="checkbox"/> B 新たな学び講座チャレンジ編（4回）	50人参加
<input checked="" type="checkbox"/> C 新たな学び講座トライアル編（6回）	72人参加
<input checked="" type="checkbox"/> D 障害のある方の学び（4回）	31人参加

【有料講座】

<input checked="" type="checkbox"/> E あきた教養講座（6回）	73人参加
<input checked="" type="checkbox"/> F 東大史料編纂所協力講座（5回）	115人参加
<input checked="" type="checkbox"/> G 北条常久特別企画講座（8回）	220人参加

(2) 学習活動等の情報発信の充実

生涯学習情報紙及び生涯学習支援システムによる情報発信

○生涯学習情報紙の発行

「生涯学習センターだより」の発行（6, 11, 3月）

A4判 2ページ

(2022実績) 4, 9, 3月号 計3,900部発行

※ 令和5年度より生涯学習・社会教育・家庭教育通信「虹色」は「生涯学習センターだより」に統合

○秋田県生涯学習支援システム「まなびサポート秋田」の掲載情報の充実

生涯学習講座等の掲載

・講座・教室、講演会、催物・イベント

人材バンクの登録等

・講師、指導者情報 ・団体グループ情報
・ボランティア個人情報 ・ボランティアグループ情報

※行動人情報について → 令和2年度よりアーカイブ化し公開

生涯学習支援システム活用のための市町村職員等への研修等

・市町村職員等研修会の実施（2回）

(2022実績) 2回 6市町等 9人

・出前講座の実施

(2022実績) 0件

・市町村職員による登録（入力）

(2022実績) 5市町 1,179件

※ 秋田市、能代市、仙北市、横手市、小坂町

(2022実績)

生涯学習講座登録件数 2,158件

人材バンク登録状況

総数 4,223件 [2件]

(内訳) 講師 750件 [2件]

団体グループ 3,268件 [0件]

ボランティア個人 166件 [0件]

ボランティア団体 39件 [0件]

※ [] 令和4年度登録件数

行動人情報

紹介人数 64,975人 ※ 令和2年度からアーカイブ化

講座情報へのアクセス状況

171,060件 (月平均 14,255件)

(3) 展示スペースの活用促進

学習の成果を紹介することで、県民の生涯学習の振興に資するため当センターの施設(1階エントランスホール、地下ホール)を展示場所として個人・団体に提供する。

□展示計画(予定)

6月 笹切りアート(加藤吉雄)

7月 パステル和(なごみ)アート展(パステルなごみアート仲間)

9月 地域学校展(秋田県立栗田支援学校)

10月 附属特別支援学校作品展

(秋田大学教育文化学部附属特別支援学校)

11月 市民サービスセンター合同作品展(秋田市教育委員会生涯学習室)

12月 シープ展(編物サークル・シープ)

1月 蓮・人・つながる!2023(NPO秋田千秋はすの会)

(2022実績)

総観覧者数（18,820人）の内訳

<input checked="" type="checkbox"/> 加藤吉雄作品展「笹切りアートの世界」	1,584人
<input checked="" type="checkbox"/> 色鉛筆アトリエ歩作品展「いろいろ色鉛筆2022」	1,696人
<input checked="" type="checkbox"/> 和みアートくらぶ「秋田初!!ノワール・アート展」	2,092人
<input checked="" type="checkbox"/> パステルなごみアート仲間「パステル和アート作品展」	1,721人
<input checked="" type="checkbox"/> 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「附属特別支援学校作品展」	922人
<input checked="" type="checkbox"/> 一般社団法人秋田市シルバー人材センター 「秋田市シルバー人材センター作品展」	1,989人
<input checked="" type="checkbox"/> 秋田県立栗田支援学校「地域学校展」	1,831人
<input checked="" type="checkbox"/> 「このねも展」	1,948人
<input checked="" type="checkbox"/> 編物サークル・シープ「編物・シープ展」	2,007人
<input checked="" type="checkbox"/> NPO秋田千秋はすの会「蓮・人・つながる！」	1,210人
<input checked="" type="checkbox"/> JCF同路人「中国切り絵（剪纸）」	1,820人

(4) 学習相談の充実

- 「ブルーの窓口」での相談業務

学習相談員（2名交代制）による相談受付（すべての開館日で実施）
生涯学習ボランティアによる原則週2回の相談も併せて実施

(5) 県庁出前講座の実施

- 4講座を担当する。

No.165 家庭教育の充実
No.166 インターネットの健全利用について
No.173 生涯学習のすすめ
No.174 生涯学習支援システム活用入門

(2022実績)

県庁出前講座参加者（311人）の内訳

<input checked="" type="checkbox"/> No.165 家庭教育の充実	3回	94人
<input checked="" type="checkbox"/> No.166 インターネットの健全利用について	3回	186人
<input checked="" type="checkbox"/> No.173 生涯学習のすすめ ※うち1回はオンライン	3回	31人
<input checked="" type="checkbox"/> No.174 生涯学習支援システム活用入門	0回	0人

(6) 障害者スポーツスペースの活用

令和元年度に設置し、翌2年5月にコートを整備したこのスペースは、一般利用（予約制）のために開放している。今年度も、開放を継続し、障害者スポーツ（ボッチャ、卓球バレー、パラバドミントン）の体験を通して、障害者の生涯学習に関する理解の促進に努める。

また、令和3年度より「あきたセカンドスクール推進事業」の一環で、「障害者スポーツを体験しよう！（ボッチャ・卓球バレー・パラバドミントン）」というプログラムを設けており、今年度も、引き続き小・中・高校、特別支援学校の「総合的な学習の時間（探究の時間）」、道徳、体育、家庭科、福祉等の授業に対応する。

(2022実績)

<input checked="" type="checkbox"/> 障害者スポーツスペースの利用実績	51件	621人
<input checked="" type="checkbox"/> 「セカンドスクールの利用」の実績	3件	75人

※内訳は小1、中1、高1

(7) 視聴覚教育の充実

□自作視聴覚教材コンクール

学習者の実態に応じた教材や地域に根ざした学習のための教材など、学びの多様化に対応した視聴覚教材の自作と活用を推進し、視聴覚教育の充実をはかることを目的に開催する。

最優秀賞受賞作品は、次年度の全国自作視聴覚教材コンクールに推薦する。

令和5年度（第73回）審査・結果発表

令和6年2月22日（木）

(2022実績) 応募作品数9点（最優秀賞1点・優秀賞2点）

□視聴覚教材等の貸出

自作視聴覚教材交流発表会及びコンクールの入賞作品や学習教材などのDVD、VHS教材を貸し出す。

(2022実績) 貸し出し実績 0点

(8) 施設利用の促進

利用者の安全と利便性向上を目指した施設の提供

☑利用実績 (2022実績)

利用人数	60,464人	(2021実績)	50,538人
開館日数	308日	(2021実績)	310日
平均人数/日	197人	(2021実績)	164人

令和4年度 センター利用者数

利用種別 月	事業			貸館				利用人数総計	
	主催事業等	ホール利用等	小計	生涯学習に関する事業を行う団体			その他の団体		小計
				教育団体	行政団体	その他			
4	2,204	167	2,371	198	0	457	953	1,608	3,979
5	2,863	250	3,113	589	80	488	1,328	2,485	5,598
6	3,394	291	3,685	707	0	396	1,076	2,179	5,864
7	2,804	295	3,099	557	0	563	902	2,022	5,121
8	1,941	167	2,108	50	0	475	572	1,097	3,205
9	2,871	283	3,154	458	0	659	633	1,750	4,904
10	3,071	273	3,344	343	0	812	1,077	2,232	5,576
11	3,713	356	4,069	361	0	819	1,401	2,581	6,650
12	2,745	310	3,055	179	25	752	891	1,847	4,902
1	2,165	248	2,413	85	0	739	867	1,691	4,104
2	2,943	327	3,270	250	24	656	1,216	2,146	5,416
3	2,688	269	2,957	71	38	699	1,380	2,188	5,145
計	33,402	3,236	36,638	3,848	167	7,515	12,296	23,826	60,464